



西村証券

チーフストラテジスト
門司総一郎の

ウィークリーレポート

2021年
7月2日
発行

第95回

「総選挙展望」

～望まれる菅首相の続投～

初めに

サンデー毎日の7月11日増大号は「総選挙・都議選ダブル予測」と題する記事を掲載しました。今後予定されている東京都議選や総選挙についての観測記事です。都議選はともかく総選挙は株式市場にも大きな影響を与えます。今回はこの記事을参考しながら総選挙の行方とそれが株式市場に与える影響について考えます。なおこのサンデー毎日の総選挙に関する予想は選挙プランナー三浦博史氏によるものです。

総選挙は11月の可能性も

三浦氏は最初に選挙の時期について述べています。先送りにした方がワクチン接種が進むので後ろ倒しにした方が与党には望ましく11月に選挙をやることもあると見ているようですがこの見方は納得できるものでしょう。

選挙の見通し

選挙の結果について三浦氏は自民党は20議席減らすものの単独過半数を維持、公明党は1増の見通しと述べています。一方野党は立憲民主党が6増、共産党1増、日本維新の会15増、国民民主党6増となっています。

自民の議席に下振れリスク

この三浦氏の見通しに対し自分は自民の議席が下振れるリスクがあると見ています。理由は3つあります。1つ目は今年に入ってから地方選・補選での自民党の苦戦です。この苦戦により自民の地方組織は弱体化していると思われるがこのことは総選挙でも自民の懸念要因です。2つ目の理由は自民党内の不協和音です。ここにきて自民党内で新たな議連の立ち上げが相次いでいます。また林元文科相のように党幹部の反対を押し切って参院から衆院へ鞍替えしようとする動きもあり、党内がバラバラになっているような印象を受けます。これが2つ目の理由です。3つ目は自民の議員、特に若手議員の力が落ちているという懸念です。第二次安倍政権発足以来自民党は常に追い風の中で総選挙を戦ってきました。そのため特に若い議員に対しては支持者への食い込みが足りないという指摘があります。しかし今回はそうした議員にとって初の逆風の中で戦う選挙です。予想外の苦戦となる可能性もあるでしょう。以上3つの理由から三浦氏の予想以上に自民が議席を減らす可能性もありと見ています。

(裏面へ続く)

西村証券株式会社 NISHIMURA SECURITIES Co., Ltd.
京都市下京区四条通高倉西入立売西町65番地(本社)
TEL:075-221-9390(本店営業部)

金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第26号
加入協会:日本証券業協会 主な事業:金融商品取引業
指定紛争解決機関:特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センター

本書面は特定の金融商品の勧誘を目的として作成したのではなく、あくまで情報提供を目的とした書類です。書面上の株式市場見通し等は、本書面作成時の当社予想ですが、その後の市場動向・結果・影響等について当社が保証または責任を負うものではありません。また内容については予告なしに変更される場合もあります。本書面の著作権は当社に帰属します。当社の文章による承諾なしに、第三者への配布・コピー等はご遠慮ください。

次期首相は誰？

三浦氏の予想以上に自民が議席を減らしても第一党は自民党に変わりありません。次期首相は菅氏の続投となる可能性が比較的高いと見ています。通常であれば議席を失った責任を取って退陣となるところですが自民が議席を減らすと見ている原因は菅氏よりも自民の政治とカネの問題だと考えているからです。一方菅氏はコロナ対策や外交で一定の評価を受けています。この様に考えれば菅氏の続投もあり得るでしょう。自民党内に次の首相はこの人という候補がないのも有利な点です。

菅政権は日本株にプラス

当レポートは菅政権発足以来一貫して菅内閣は株式市場にプラスと主張してきました。総選挙で自民党が議席を失っても今のところこの見方を変えるつもりはありません。

(この文章には特定の政治家に関するコメントがありますがこれは筆者自身の意見であり西村証券の意見ではありません。)